カトリック高松教区報

２０１６年５月１５日（第１７２号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
その人のうちに、神さまの似姿を見ることが出来ないという人たちほど、私たちにとって哀れな人はいません。

信徒のみなさまに「教区献金」お願い

諏訪司教　教区財政立て直し策

現今の高松教区における財政は非常に逼迫した状況にあります。そこで早急に何らかの対策の必要に迫られています。その中で、諏訪榮治郎司教は司祭評議会、宣教司牧評議会にその対策を諮問しましたが、これに先立ち、大阪教会管区は高松教区への経済支援を決定しました。高松教区は他教区からの支援に甘んずるだけでなく、自らの経済立て直しについて司祭評議会・宣教司牧評議会における評議を経て、一連の立て直し策を決定しました。

諏訪榮治郎司教

２０１５年度の各小教区公式訪問において、「教区の財政問題」について、大変厳しい状況にあることを報告させていただきました。高松教区会計は毎年多額の赤字を続けていかねばならない実情があります。

最大の理由は、教区運営のために司祭たちの人件費を最優先しなければならず、教区として最も重要な福音宣教、司牧活動費が大幅に縮小されているのが実情です。

例えば２０１４年度、２６小教区からの納付金（主に人件費用）は２６９３万円に対し、司祭等の人件費は３２８１万円で、１４００万円の赤字決算でした。

この２０１６年度では司祭、教区職員の人件費のみならず、築後60年ほど経つ各小教区の建物の改築、耐震工事、設備の改修など大きな赤字が見込まれ、特別献金を捧げていただいたとしても、この状況を放置すれば高松教区はいずれ立ちゆかなくなる可能性がでてきます。

大阪教会管区及び修道会からの援助

これに鑑み大阪教会管区司教会議（名古屋　京都　大阪　広島）は高松教区への「財政支援プロジェクト」を決定いたしました（２０１５年2月15日）。

【決議事項】

２０１６年度から3年間、高松教区の本部事務局の財政的な自立に向けて、赤字額のうち５００万円を、大阪管区で支援する。

内訳は、大阪教区が半額の２５０万円を、残り２５０万円を、京都、名古屋、広島3教区で分担する。

また大阪教区在の女子修道会からも司祭人件費への援助が一定期間行われることになりました。

高松教区の私たちはこの寛大な支援に対して、どのように応えていけるでしょうか。

教区民の皆さまへの提案「教区献金」のお願い

上記の管区の援助にあわせ、高松教区内小教区の皆さまや、修道会、諸施設の皆様には、日頃から多大な犠牲を捧げていただいていることを重ねて心より感謝申し上げる次第です。

いま改めて、教区は私たち一人ひとりの参加と奉仕から成り立っています。また霊的な成長を願い、かつ経済的な基盤の確立に向けて教区を支える必要があります。

つきましては、誠に突然ではありますが、教区として何度も検討を積み重ねた上、以下の「教区献金」を提案させていただきたく思います。

目的
司祭給与のための、個人としての「教区献金」です。

性格
個人の自由な献金ゆえ小教区会計に組み込まれるものではありません。教会維持費やミサ堂内献金等は従来どおり行われます。

目標
年間１口１万円の献金（めやす）とし、延べ１０００人の献金により、１０００万円の目標。
ちなみに1ヵ月換算では８５０円　となります。

方法
教区本部事務局は各教会に個人用「教区献金」袋を配布します。
・給与所得者や年金受給者を配慮しながらご協力をいただく。
・外国籍の方々にも説明がなされ、参加していただきたく思います。
・個人はできるだけ一括で収め、小教区会計係は本献金を取りまとめ、本部に送金する。

開始
「教区献金」は２０１６年度（4月）から始められ、3年間施行いたします。

狙い
一人でも多くの方々による教会維持への協力と参加を願うものです。

経済的に厳しい昨今の社会状況ではあり、誠に突然な提案で戸惑いがあろうかと思われますが、上記の教区実情をご理解いただき、各教会での評議会議長もしくは会計係から説明を受け、寛大なご協力を心よりお願い申し上げる次第です。

皆さまの上に主の豊かな祝福を心よりお祈り申し上げます。

高松教区
司教　諏訪榮治郎
司祭評議会
宣教司牧評議会

助祭叙階の恵み　神に感謝

ヨセフ・呉文成（ゴヴァン タイン）

助祭叙階の按手を受けるヨセフ神学生

３月１３日（日）高松司教座聖堂に於いて高松教区神学生、呉文成（ヴェトナム籍）の助祭叙階式が全国各地のヴェトナム共同体の信徒を含む多くの聖職者と信徒の参列の中で荘厳ななかにも喜びのうちに執り行われました。高松教区にとっては久しぶりの教区聖職者の誕生とあって、その喜びもひとしおのものとなりました。

このたび、２０１６年3月13日、高松教区司教座聖堂において、わたしは神の恵みと皆さまのお祈りによる支えにより、助祭に叙階されました。

まず、諏訪榮治郎司教様をはじめ、これまでのわたくしの歩みを温かく見守ってくださった方々に心から感謝を申し上げます。

神様から頂いたこの助祭職を、司祭に叙階される日まで責任をもって果たして行きたいと思っております。これからも温かく、そして厳しくご指導ください。

私はこの秘跡を受けるまで、毎日祈りながら待っていました。そしてやっと喜びの日を迎えることができました。叙階式に多くの方々が集い、ともに祈り、ともにいてくださったおかげで、安心のうちにつつがなく叙階の恵みを受けることができ、非常に嬉しく思っています。

これまで神学校で神学生として、学んだことを小教区への実習派遣のなかで、実際に沢山体験させて頂きました。

助祭の務めの中心は「奉仕」にあります。それはみことばの奉仕、典礼の奉仕などです。そして、何よりも大切なのは愛の奉仕です。

助祭は神学生とは違い、聖職者として責任を持って役割を果たさなければなりません。助祭はカトリック教会の公的奉仕者、共同体への奉仕者です。

同じく、初代教会においても、助祭は新約聖書にあるように「執事」「奉仕者」と呼ばれていました。

殉教者ステファノなどの7人が最初の助祭に選ばれたのはご存じのとおりです。彼らの任務は愛の奉仕であり、とくに貧しい人々のことを配慮することでした。

現在、助祭には信者にも信者でない人にも良い勧めを与え、聖なる教えを伝え、祈りを司式し、洗礼を授け、結婚に立ち会って祝福を与え、死に臨む人にキリストの聖なる糧を授け、葬儀を司式するなどの役務が与えられています。

神学校生活の最後の年に当たり、四月からは助祭コースというカリキュラムを歩みます。助祭には叙階されましたが、まだ神学生と呼ばれます。教会での司牧上必要な事柄について、より実践的な視点から幅広く学ぶことになります。

仕えるために来られたイエス様に倣って、助祭として皆さまと共に信仰生活を送って行きたいと思います。そして、私が神様の道具として、関わるお一人おひとりのお役に立てる者となれますようにと願っております。

主の御心にかない、順調にいけば、来年私は司祭叙階の恵みを頂き、高松教区の司祭となり、高松教区で働くことになると思いますが、末永く教区の皆様と共に歩んで行きたいです。

そのために、日々の生活を大切にしながら、祈りにも、勉強にも司牧にも励み、頑張っていきたいと思います。どうかわたくしのために引き続きお祈り下さい。

教区巡礼地に

小豆島オリーブ園の祈りの家　オラト

オリーブ園内のオラトリオ内部

長年の懸案でありました「神のしもべユスト高山右近」の列福をバチカン教皇庁は承認いたしました（２０１６年1月22日）。

豊臣秀吉の治世（天正年間）、宣教師が小舟を使い瀬戸内海に宣教をおこない、小豆島にもキリシタン在の記録が残されています。

後に右近家族が追放され、この中山地区に潜伏し、オルガンティーノ神父の指導を受けていた形跡もあります。このたびオリーブ園内の“オラトリオ”を高松司教区は巡礼地として、同園より借用させていただくこととなりました。

そもそも“オラトリオ”は「世界平和」のために香川県宗教者の集いによって建てられた（１９９２年11月）「祈りの家」です。現在、小豆島教会の協力を得て、静かに祈りを捧げる聖なる空間が生まれています。ミサも捧げることができます。

皆さま、右近列福式を前に小豆島での右近の意義を思い巡らし、また平和を祈願する巡礼地に加えて、ご訪問ください。なおミサ聖祭を捧げる場合は、教区本部にご一報ください。

（電話〇八七　８３１　六六五九　FAX〇八七　８３３　一四八四）窓口（岩﨑神父　〇九〇　４７８５　七九二六）

熊本地震へ支援を

TSCでは当面の支援を左記、福岡教区の支援窓口と、カリタスジャパン、「熊本地震」緊急募金受け付け窓口へ直接に、個人あるいは団体での寄付をお願いしています。

福岡教区
福岡中央銀行（平尾支店）
口座番号・（普通）１０７６２０６
加入者名・宗教法人カトリック福岡司教区
代表役員　宮原良治
送信者の名前のあとに「クマモトジシンシエンキン」と書いてください。

カリタスジャパン
郵便振替番号００１７０－５－９５９７９
加入者名・宗教法人カトリック中央協議会　カリタスジャパン
通信欄に、「熊本地震」とご明記ください。

はばたき

今私の一番好きな色は桜色ですが、ほかのどの色よりも優しさを現しているように思えて、病人のお見舞いにはなるべく桜色の服を着るようにしています。

「私たちがこの世に遺すことのできる最も尊いものは優しさです。」これはある司祭の言葉ですが、優しさには大きな力があります。

優しさを送り続けていれば、いつか花が咲き、実を結ぶことができるでしょう。優しさから出た行為には美しさがあります。愛、思いやり、親切心は使えば使うほど豊かになります。自分を無にして人に尽くしたいものです。

聖霊降臨祭で「聖霊の続唱」を歌う時、こんなに神様は私達をいつくしみ、優しさで包んでくださっているのだと感じて喜びに満たされます。聖霊によって慰められ、励まされた人はイエス様のように深い大きな愛に生きることができるように変えられていくのだと思います。

聖書はイエス様の優しさに満ちています。罪の女を赦し、病を癒し、迷った子羊を肩に負い、放蕩息子を抱きしめる父親の話し等々。

また、真福八端はイエス様の似姿、生き方、真の幸いへの道を示しています。この道を歩めば天の国は私たちのものとなるでしょう。

「自分の貧しさを知る人は幸いである、天の国はその人のものだからである。あわれみ深い人は幸いである、その人はあわれみを受けるであろう。」
（マタイ５―３・７）

言葉

修道院紹介

聖ドミニコ宣教修道女会　松山修道院

戦前戦後通じ宗教教育に奉仕

松山修道院（左）の前で笑顔の姉妹たち

去る3月21日、新校舎竣工式後、松山修道院のシスターたちと管区長とで、昔久保町と呼ばれた永代町にある聖カタリナ女子高等学校の校舎に感謝をこめてお別れ会を催しました。

多くの生徒・教職員が、この学び舎と先輩シスターたちのもとで生きた信仰を伝えられ、召命を育まれ、また聖ドミニコの精神を受け継ぐ会員として今ここに集められた喜びからです。

1925年、ドミニコ会ロザリオ管区の神父様方が旧松山教会跡に美善女学校を開校、3階建の美しい木造校舎を分かち合って始まった学校と松山修道院は、本会各地の修道院と会員の母体となってきました。

日本の本部のほか、1934年本会独立後は修練院が松山に移されるなど、しばしば修練院・修学院といった養成の家にもなりました。

建築後50年余、見守り続ける藤原校舎とマリア像

終戦間近1945年7月26日の松山大空襲で修道院・学校も灰塵に帰し、シスターたちはバラック生活を始めました。

戦後の学制改革に伴い1948年「松山女子商業高等学校」認可、校舎を次々と新築し、北校舎・修道院落成後、シスターたちはバラックから移り住みました。

1956年、高校は近くの藤原町に土地を購入し鉄筋三階建校舎を新築。1965年、修道院と聖堂の落成に伴ってシスターたちは永代町から新修道院へ移転、近くの室町には「ロザリオ幼稚園」も開園しました。

1961年建築の高校白ゆり館では、1970年聖ドミニコ生誕800年、1985年には愛媛宣教100周年といった歴史的な記念式典も行なわれてきました。

国際修道会である本会各地から国際色豊かに姉妹を迎えてきたシスターたちは、朝の祈りの「賛美」で毎日を始め、平日幾人もの信者さんとともにドミニコ会の神父様からミサで「祝福」を受け、「説教の家」である修道院での共同生活と祈りの奉仕、使徒職の場である学校や幼稚園での宣教に派遣されます。

さらに、松山・道後教会と教区の宣教活動や青少年・子どもの信仰教育への奉仕、聖体奉仕者、病人等の訪問、困窮者の精神的・物質的援助への奉仕などにも努めています。

昨年創立90周年を祝った高校は、ドミニコ会創立800周年の今年4月から、男女共学の「聖カタリナ学園高等学校」として新しい歴史を歩み始めました。

神さまと先輩方がいのちの息を吹き込んでこられたこの松山修道院で、シスターたちは深い祈りと喜びをもって福音と奉献生活を次の世代に伝えたいと希望を新たにしています。

Sr・浅山　ミヤコ

資料提供へのお願い

番町教会は2022年、創立100周年を迎えます。そのための資料収集を計画しています。特に、創立当初から戦前の写真や教会報等をお持ちの方の協力をお願い致します。

番町教会広報部　☏ 087-823-0430
FAX 087-823-0431

銀祝 オブレート宣教会 Br. 八木信彦　おめでとう！　金祝 聖ドミニコ宣教修道女会 Sr. 野本玲子　修道誓願宣立　聖母被昇天修道会 Sr. 長　美喜 金祝

タイなど海外でも宣教活動

初誓願 1966年3月25日

シスターは大阪の北浜教会で前田朴神父様から1953年家族全員で受洗されました。

神父様は毎週、家まで来てくださって、要理を教えてくださったそうです。

1963年に聖母被昇天会に入会し、その後、フィリピン・マニラで修練を終え、1966年3月25日に初誓願を宣立されました。

その後、箕面の聖母昇天学院へ赴任し、1973年3月25日に高松の修道院において終生誓願を宣立され、マリア幼稚園に勤務されました。

その後、1983年から1987年まで、タイの聖母被昇天会に派遣されましたが、言語や文化の違いの中で大変苦労したことは大きな思い出となっているとのこと。

また、タイの日本人会の皆さんと交われたことも良い刺激となり良い経験になったそうです。

丸亀聖母幼稚園赴任時は丸亀教会でスペイン外国宣教会の神父様方と幼稚園や教会で福音宣教に協力できたことは大変うれしいことでした。

現在は、高松のマリア幼稚園の保護者の方や桜町教会のレクチオディヴィナなどでの、み言葉の分かち合いや幼稚園の子どもたちへの聖書のお話し等を通して神さまの慈しみを伝えたいと頑張っておられます。

誓願の金祝に当たり、いつも家族として互いに支え合い、お世話なっている信徒の皆様とともに心からお祝いいたします。

修道院姉妹一同

誠実に主のみ前を歩む生活

初誓願 1966年3月7日

シスター野本は高校時代に松山教会で、同級生3人と共に受洗しました。高校卒業後、就職し2年後の1963年にドミニコ宣教修道女会に入会し、1966年3月7日に初誓願を宣立しました。

その後3年間の修学期をへて坂出聖マルチン修道院を始めとし、岡崎、園部、北条の修道院を経て、ここ新居浜修道院で金祝を迎えました。

シスターは奉献生活においても、また使徒職においても終始変わらぬ堅実さと誠実さをもって主のみ前を歩んでいます。

信徒の家庭の訪問や病者訪問での聖体奉仕における教会活動にも積極的かつ意欲的な関わりを大切にしています。聖ドミニコの「観想し、その実を告げ知らせよ」とのモットーを生きている姿は私たちの模範です。

私たちの心からの祈りを込めてお祝い申し上げます。

新居浜修道院姉妹一同

「愛すること」大切にする人

終生誓願 1991年8月4日

ブラザー八木、終生誓願25周年おめでとうございます。

ブラザー八木は四国で唯一人、また四国出身の修道士として信徒の皆さん、特に私たち青年や子ども達の中に溶け込み、同じ目線に立って、ともに喜びや悩みを分かち合ってくれます。いつもその存在に感謝です。

ブラザーのその飾らない人柄や、親しみやすさは、付き合えば付き合うほど、私を含め多の人々に安らぎと笑顔を与えてくれています。

私は主に青年会での活動でお世話になっていますが、いつもブラザー八木の「兄弟」としての温かい眼差しに見守られています。一緒に冗談を言い合って、一緒に夜更けまで語り合って、一緒に祈ってと、私たち青年と共にいて、支えてくれています。このことも本当に感謝です。

「神さまが私たちに一番望むことは『愛する』ということ」。これは日頃ブラザーがおっしゃっていることでもありますが、ブラザーの言葉やふるまいからも「愛する」ということを一番大切にしていて、「愛する」ということがブラザーの歩みの中心なのだなと感じています。

四半世紀にわたりブラザーが歩んだ足跡が、この先、金祝、ダイヤモンド祝へと続くようにお祈りしています。お体に気を付けてこれからの歩みが続きますように。

これからもどうぞよろしくお願いします。

最後にもう一度、ブラザー八木ほんとうにおめでとう。

徳島教会　嘉　凜太郎

皆様よろしく

桜町教会担当司祭　松浦信行

この4月、大阪教区の東大阪（布施、枚岡）と八尾にある3つの教会担当から桜町教会に着任いたしました、松浦信行です。

1954年生まれ、当年61才です。大阪の宝塚の御受難会（黙想指導が主な仕事です）に子供の頃から憧れ、小学校4年生から関わり続けてきました。会の方針で一般の学生の体験をするために、高校生の頃は弁論部（だから声が大きいのが特徴です）、神学生の頃はマンドリンクラブに入って指揮者をしていました。

その後、中間期として大阪の宝石屋さんに2年間勤めました。御受難会の司祭として叙階された直後には、大阪教区の教会に派遣され、それが縁で20年前に大阪教区の司祭となりました。

音楽と絵本が好きで、神学校の舎監を9年勤め、大阪の共同宣教司牧の当初のメンバーで、阪神淡路の震災の現地救援本部長についた、一貫性のない何でも屋です。

大阪人らしい笑いが好きな性格ですので、よろしくお願いいたします。

笑いが好きな大阪人です

神さまの望むことを行う

学校法人聖母学園理事長　桜町聖母幼稚園園長　鈴木　聡

歴史ある聖母学園の理事長に選任されたことをとても光栄に思うとともに、聖母学園各幼稚園の先生方の期待に応えていけるのかとても不安に感じています。

この間、「神様は私に何を望んでいるのか」「神様の望みに応えるために私は何をすべきなのか」を聖堂の十字架を見ながらお祈りしていました。

神様は、私の耳元でソッと二つのことを語りかけてくれたように思います。

一つは、こどもが将来にわたって幸せになれるようにしなさい。そのために、何ができるかを考えなさい。

二つは、聖母学園の幼稚園で仕事ができて良かったと教職員の方々が思えるようにしなさい。そのために、何ができるかを考えなさい。

とてもとても大きな課題をくださった神様に心から感謝するとともに、「何ができるのか」を真剣に考えました。

今後取り組んでいきたいことの一つとして、各幼稚園間の交流があります。それぞれの幼稚園が蓄えている「経験」を聖母学園全体のものとして共有していきたいと考えています。

二つとして、聖母学園としての研修会の開催です。「キリスト教的保育をいかに推進していくのか」「こどもの立場に立った保育を推進していくためにはどうすれば良いのか」等、一つの幼稚園では行えない研修会を行っていきたいと考えています。

最後に、私のような未熟者に目をかけてくださった神様に感謝して、筆を置きたいと思います。

新刊書籍紹介

■家族

2015年に行われた家庭に関する一般謁見連続講話と、関連するテーマの講話等を収録。

父、母、子など家族それぞれの役割と相互の関係、そして現代の家庭が直面している種々の困難について語り、家庭における親しく温かな交わりを社会にまで広げるよう穏やかに訴えかける。

ページ数:256 本体価格: 900円

いつくしみの聖年　少年少女の集い

いつくしみの特別聖年・少年少女の聖年の一環として第28回「高松教区子ども&中高生の集い」が、4月23日、24日に丸亀教会で開催され、「来てごらん！わたしも呼ばれているの？」という召命を中心としたテーマで、国際色豊かな約90名の集まりになりました。

丸亀城公園でゲームを楽しむ参加者

団扇に決心書いた

この集いは邦人司祭の松浦信行神父様、スペイン外国宣教会のカンバラ神父様、オブレート会のBr・八木、パウロ会のBr・阿部、聖ドミニコ宣教修道女会、聖母被昇天会が準備してくださり、修道会等の創立の主旨や全世界に広がる宣教活動、聖職者としての仕事など、6か所のブースに分かれて説明を受けました。

特に神様からの呼びかけに応えられた体験談は強く心に響きました。

その後、参加者一人ひとりが自分を振り返り、新たな決心を団扇（うちわ）に記し、分かち合いました。

準備してくださった神父様、ブラザーやシスター方に感謝し、来年は徳島で会う約束をしました。

参加者一人ひとりが、神様からのメッセージを受けた貴重な2日間だったと思います。

香川地区教会学校リーダー会　谷本千佳代

多くの出会いに感謝

「来てごらん！」わたしもこの集いに参加して、神様に呼ばれている気がしました。

私は土曜日に登校していたので途中からの参加でした。そのこともあり、1日目は知らない人が多く、とても緊張しましたが、2日目になると不思議なことに自然と打ち解けて、皆と仲良くなれました。

各々の目標を記したうちわ

2日目に教会で神父様から「ともだち」についてのお話を聞いたあと、丸亀城に場所を移し、うちわに自分の目標、「自分のことだけでなく、友達のことを考えて行動しよう」と書き込みました。

教会に戻ってからの振り返りの時間に、うちわの発表をしました。みんなのうちわを見て、色々な思いを感じることが出来ました。

この集いで久しぶりに会ったカンバラ神父様からたくさん話しかけられたので、とてもうれしかったです。

その他にもたくさんの出会いがあり、感謝の気持ちでいっぱいです。お世話してくださったみなさまありがとうございました。

6年　楠明子

神父さまと楽しい話

日曜学校の多くのメンバーが丸亀教会で行われたこの集いに集まりました。

この中で特に楽しかったことは「MYうちわ作り」でした。まず、うちわミュージアムに行き、職人さんの技を観察しました。職人さんはたくさんの努力をして、今のうちわを作っていることが分かりました。

そしてMYうちわ作りに取り掛かりました。うちわには神さまの言葉を書くことになっていて、たくさんの思いがあったのでどれにしようかと迷いましたが、最終的には「困っている人を助ける」という言葉にしました。

往復の車の中で、楽しい話を沢山してくださった松浦神父様、日曜学校のリーダー、スタッフの皆様本当に有難うございました。

中1　三宅みさき

丸亀教会での感謝ミサ後の記念写真

『典礼奉仕』のために（24）

典礼ひとくち解説　その１
「ミサは対話」

高松教区典礼委員長　谷口広海

第2バチカン公会議後の教会の典礼においての変化は典礼の国語化とそれによって生まれたもう一つの変化です。

公会議まで司祭は壁に向かってミサを捧げ、信徒がミサに与るとは「聞く」ということだったのでしょうか。今、ミサは背面ではなく対面になり司式司祭と会衆の間での対話の儀式となった変化です。

司祭・父と子と聖霊のみ名によって
会衆・アーメン

日本語ではない言葉ですが、この「アーメン」は信仰の告白、心の同意を表わす深い意味を持っていて、ミサの中で10回以上も使われています。

その中でも一番大切にされるのは、「グレートアーメン」です。奉献文の最後に唱えられますが、感謝の祈り（奉献文）の間に祈られ、行なわれたことにたいする心からの同意と信仰の告白の「アーメン」です。

ミサの対話的構造を理解することで信徒のミサへの意識的かつ行動的参加を育むこの「アーメン」一つ、一つをもっと大事にしたいですね。

そして、司式司祭も信徒も注意しなければならないのが、その「アーメン」の前に、次の動作や祈りに移らないようにしなければならないということです。

使徒信条での信仰告白の総決算である結びの「アーメン」と聖体を授かる時の「キリストのおん体」に対する信仰告白でもある「アーメン」はとくに意識し注意を向けるようにしたいものです。

夫婦あるべき姿に気づく

ＭＥのウィークエンドに参加

立浪ご夫妻

今、振り返ると25年程前、夫婦の会話がほとんど無い状態になっていた。

私は仕事しごとの毎日。妻は子育て一筋。私は子供との対話も少なく、子供も難しい時期でもあった。その為、夫婦間にストレスが溜まり、隙間風を感じる状態であった。

その頃、マリッジ・エンカウンターへのお誘いがかかり、夫婦で参加することにした。

関係者からの説明を受け、よく理解できないながらも、良いものであると感じられ、参加することに決めた。

2泊3日のウィークエンドに参加し、神父様や体験者のお話で、夫婦としてあるべき姿と心構えが、私たちの心の底に浸透した。

その結果、対話を取り戻し、お互いの心が通じ合うことが出来た。

その後、体験者の集まりが定期的にあり、分かち合いの中で夫婦の一致を高め合いながら、家庭の平和、主とともに歩む喜びをますます感じている。

危機を脱することができたから言えることかもしれませんが、結婚し家庭を持つことは大変すばらしいことだと、是非申し上げたい。

関心をお持ちの方は所属教会の神父様に、お聞きください。

桜町教会
立浪敏男　すみ子

国際色豊かに歌合戦

香川西讃ブロック花見会

去る4月3日、日曜日の午後恒例の西讃ブロック地区の花見会が坂出瀬戸大橋記念公園で行われ、坂出教会、丸亀教会、善通寺教会、観音寺教会、池田教会から、それぞれ小教区の御ミサを終えて三々五々集まり、楽しいひと時を過ごしました。

カンバラ神父様、ホルヘ神父様、宋神父様、谷口助祭様に、坂出ドミニコ修道女会のシスター達も沢山参加され、各教会の有志の信者たちに加え、今年は新しくベトナム人の若者グループやタイ人、カンボジア人の青年も加わり、フィリピン人、ペルー人、日本人と国際色豊かなメンバーで、持ち寄りの弁当を食べながら隣り同志の歓談や、教会ごとの歌合戦をしてそれぞれがお国の歌を披露してくれました。

お弁当にお喋りの花が咲く

頭上を走る瀬戸大橋線の列車の音に時々声もかき消されながらも、ホルヘ神父様の明るく軽妙な司会進行で余興も弾み、カンバラ神父様のにわかフラメンコ？も登場する程でした。

桜の木の下で、お酒を飲みながら桜を鑑賞する花見も季節感があって良いですが、桜から少し離れた公園の広々とした場所で、周囲を気にせず和気藹々と年に一度の花見会も有意義な親睦の場である事でしょう。今後、もっと多くの方々に呼びかけてはと思いました。

散会の後、帰りの車中で雨が降り出したのには、ラッキーなタイミングだと、神様のお恵みに感謝せずにはおられませんでした。来年の開催をまた楽しみにして帰途に就きました。

丸亀教会　太田　修

カトリック通信講座

1972年開設以来の信頼と実績。『聖書入門〔Ⅰ〕』のコラムには、Sr. 渡辺和子も登場。
2015年春に「幸せな結婚」のテキストをリニューアルしました。
＜全7講座＞
T001 キリスト教とは　キリスト教の概要
T002 聖書入門〔Ⅰ〕　四福音書（イエスの生涯）
T003キリスト教入門　秘跡や信仰生活（洗礼準備にも）
T004 神・発見の手引　人生、自然を通して神へ
T005 聖書入門〔Ⅱ〕　使徒言行録・書簡・黙示録
T006 幸せな結婚　結婚の意味や愛、幸福
T007 生きること・死ぬこと　命に関する問題
詳細はホームページをご覧ください。

＜受講料＞（教材費・税込）
T001～T004　各4800円
T005～T007　各5300円
＜お申込み＞
郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号（T001～T007）をご記入のうえ、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。
振替口座番号：00170-2-84745
加入者名：オリエンス宗教研究所
＜お問い合わせ＞
オリエンス宗教研究所　カトリック通信講座
Tel:03-3322-7601 / Fax:03-3325-5322
URL:http://www.oriens.or.jp

告　知　板

テーマ「平和をつなぐ」
―教会は人間の命と尊厳を大切にする―

いのち、人権、平和などについて考えることは、イエスの生き方に学ぶ私たちにとってとても大切なことです。この度、平和活動に長く関わってこられた松浦司教様の講演会が、松山教会で開催されることになりました。

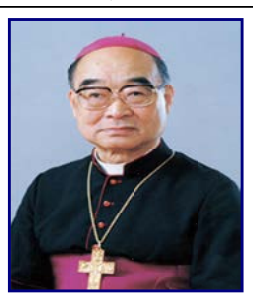
めったにない機会ですから、ぜひ多数の方が参加されるようお勧めします。

高松教区人権を考える委員会委員長
イルダヤラージ神父

期　日：2016年6月11日（土）13:00～16:00
会　場：カトリック松山教会
講　演　会：13:00～15:00
松浦司教を囲んで：15:15～16:30
講　師：松浦悟郎司教（名古屋教区教区長・ピース9呼びかけ人）
主　催：高松教区人権を考える委員会
連絡先：イルダヤラージ神父
（中島町教会 088-872-3658）

訃　報

パウロ安田久雄大司教



大阪教区前々教区長 パウロ安田久雄大司教が、2016年4月23日カトリック仁豊野ヴィラにて、老衰のため帰天され、4月25日に葬儀ミサと告別式が行われました。享年94歳。

トマス・マヘル神父

4月16日（土）、オブレート会司祭（カトリック聖母献身宣教会）のトマス・マヘル神父様が肺炎のためご帰天。享年84歳。

「神さま、私にお与えください。自分に変えられないものを受け入れる落ち着きを、変えられるものは変えていく勇気を、そしてふたつのものを見分ける賢さを」すべて良し、すべて感謝、トムの心境です。

マヘル神父の略歴
▼1931年5月29日、アメリカ合衆国イリノイ州で生まれる。▼1958年5月30日、司祭叙階▼1958年9月17日、来日、東京で日本語勉強後、古賀、伊丹、鳴門、赤岡、安芸、高知中島町、中村教会で司牧。主な活動に、刑務所教誨師、薬物・アルコール中毒者ケアに長年間従事した。

教区スケジュール

5月
10日（火）司祭評議会10：00
14日（土）聖マチヤ使徒　祝
15日（日）†聖霊降臨の主日
20日（金）田中英吉司教命日
21日（土）宣教司牧評議会役員会13：00
22日（日）†三位一体の主日
29日（日）†キリストの聖体
31日（火）聖母の訪問　祝

6月
3日（金）†イエスのみ心　祭　（初金）
4日（土）聖母のみ心　記
5日（日）年間第10主日
10日（金）大阪教会管区司祭集会in大阪「司祭・助祭のための聖年」
12日（日）年間第11主日
18日（土）宣教司牧評議会13：00
19日（日）年間第12主日
20日（月）広島・高松教区合同黙想会in鎌倉黙想の家（～25日）
24日（金）†洗礼者ヨハネの誕生　祭
26日（日）年間第13主日【聖ペトロ使徒座への献金】
29日（水）†聖ペトロ・聖パウロ使徒　祭

聖マルチン病院緩和ケア病棟（下）

前号に続く

苦しむ患者さんに寄り添い傾聴も

レクレーションに参加できる患者さんは、デイルームで理学療法士、作業療法士の指導によって作品作りを体験しています。

丹精込めて仕上げた作品は、デイルームに展示され、亡き患者さんの作品は、他の患者さんや遺族への癒しにもなっています。

デイルームのゆったりした空間の中で、患者さん、家族、そして職員がにこやかに談話する場面も見受けられます。スタッフも共に苦しみを分かち合いながら明るい病棟づくりに専念しています。

がんが告知されている患者さんのもとへは、できる限り足を運び、寄り添い、不安を少しでも解消できればと、時には世間話をし、体の苦痛、魂の痛みへの傾聴に心がけています。

デイルーム

療養生活では、患者さんの生活パターンを尊重し、栄養面、清潔面等の援助など患者さんの状態に合わせた看護に努めています。

デイルームでは職員のご主人の協力によって熱帯魚を育てています。私は、熱帯魚の死が、日々自分の死と向い合っている患者さんに良くない影響を与えてしまうのではないかと、いらぬ心配をしていましたが、寧ろ癒しの効果が得られていることが分かりました。

ボランティアによるマンドリン&ギター演奏もあり、演奏を聞きながら懐かしのメロディーを口ずさむ高齢患者さんの綺麗な声も聞こえ、温かな雰囲気の一時を過ごしました。

病院では、早くから認定看護師の養成として、多職種、また製薬会社の協力によって研修を重ね、より良い緩和ケア病棟を目指して現在も努力を重ねています。

また、大切な患者さんの付添を望まれるご家族への配慮として家族控室を準備しています。

お寄せください！！
神からの慈しみの体験を

高松教区は信徒養成という方向性の中で、小教区・地区/ブロック・教区での信徒の集まりを、１年毎の３年周期で開催しています。今年は教区信徒大会の年に当たりますが、本年は「いつくしみの特別聖年」に当たり、いつくしみのイエスとの出会いを大切にしたいと考えています。

そこで、教区宣教司牧評議会において本年はいつくしみの体験や分かち合いを具体化する場、神からの和解の恵みを積極的に受け取るコンパクトな集い、子どもから高齢者までのすべての信徒が集える小教区単位での集いとすることに決決定しました。

これからの半年をかけて、各年齢層での神の慈しみの体験や癒しについての声を集め、信徒各自の福音書として著す冊子を残す取り組みとし、11月の司教座での「神のいつくしみの特別聖年閉年ミサ」へと高めていくこととしました。

信徒の皆さんには神のいつくしみの体験等をしたためて頂き、順次教区報への掲載を考えています。どうぞ奮ってのご応募をお待ちしています。

一時、在宅で過ごすための外泊あるいは退院、入院も可能です。介護者が在宅で疲れたときには、ショートステイのような入院方法もあります。

ルカ10章の「善きサマリア人のたとえ話」の冒頭で律法の専門家がイエスに「先生、永遠のいのちをいただくためには、何をしなければなりませんか」と尋ねます。また「わたしの隣人とはだれですか」との問にイエスは「あなたも行って同じようにしなさい」と諭されました。

私たち人間は、自己中心的に自分の隣人が誰なのかと思い巡らしがちですが、イエスは、私たち医療従事者に自ら進んで身近な人の隣人になるようにとメッセージを届けます。

それに応えて私たちは、日々、人格と人格の出会い

坂出聖マルチン病院
シスター合田　慶子

原発被災で苦しむ人々
道後教会　福島の現状を聞く集い

東日本大震災から5年。道後教会では『震災を忘れない』ための企画として、現地の生の声を聞こうと福島のボランティアグループ『白河みみずく』の5人を招いて3月13日、教会で講演会、追悼ミサ、ミニコンサートを開いた。

講演で『白河みみずく』の金澤弘子代表は原発事故による放射能汚染は広がり、人々への被曝は続いている中で、恐れ苦しみながら生きる福島の人々の今の姿を生々しく語った。

２０１１年3月11日、大地震が起こり街は破壊され、大津波にのまれ、原発が爆発した。『安全神話』は完全に崩れた。放射線の猛毒は出っぱなし、汚染水は貯水タンクが壊れて垂れ流し、除染もままならず汚染土入りの黒い袋は仮置き場に山のように積まれている。

野田総理は『収束宣言』を出したが、収束などしていない。復興は進まず、国の対応は『うそ、ごまかし、逃げ、いいのがれ、知らんぷり、だまし、すり替え、まともに聞かない』などばかりだ。

福島の現状を熱く語る講師

双葉町などの汚染地区へは永久に帰れないだろう。自分の家があるのに住めないつらさ。墓参りにも行けない。

福島県内での自殺者が続き歯止めがかからない。他の地域の３～４倍だ。

福島では震災の死者数より自殺や孤独死などの関連死者数の方がはるかに多くなった。金澤さんの話から福島での震災後の人々の生活の過酷さが伝わってきた。

続いて追悼ミサで被災者の永遠の安らぎを祈り、苦しみと悲しみ、無念さの中で今を生きる人々のために祈り、キャンドルサービスでは85人がローソクを捧げた。

その後ミニコンサートが行われ、コーラスグループ「カンターテ・カリタス松山」がモーツアルトのレクイエムなどを合唱。荘厳な歌声で死者たちを慰霊した。

最後に出席者全員が丸くなって手をつなぎ『一人の手』を合唱。和やかな共感と祈りの中でこの催しを終わった。

道後教会　丸尾修

東北支援コンサート
～祈りの調べ～
東北に届け祈り歌声
坂出教会　悲しむ人々に心添えて

未曾有の大震災から5年目を迎えました。坂出教会では、3月6日のミサ後に～東北へ届け！祈りの調べ～と題して、復興支援コンサートを開催しました。

信徒だけでなく、ご近所の方や、土曜学校の子どもたち、マルチン病院の患者様やご家族も含めて90名の方が集いました。

第1部は「悲しみ、苦しみ、痛みに心を合わせて祈る」をテーマに、まず震災の様子を映像で振り返ります。

坂出教会聖堂でコーラスに聴き入る参加者

様々な思いが込められたキャンドルが、ホルへ神父様と子供たちの手の中で、小さく、大きく揺れながら祭壇前へ。

追悼導入の祈りののち、典礼聖歌「聖なる霊よ、愛の火を」を3回繰り返して歌いました。この短い聖歌は、祈りを唱えるように静かに、後の朗読の合間あいまにも歌われました。

続いて阪神と東日本両方の大震災を経験した菅原千明さんの手記「あの日あの時で止まったままの私」が朗読されました。最後に「この日、日和山から見る海はきらきらと光を反射し、

坂出聖マルチン病院
シスター合田　慶子

静かに最後の聖歌唱和が流れます。そして、よきサマリア人のみ言葉の朗読後、第2部へ。

まず、ピアノ演奏。「追悼となぐさめ」をテーマに、二人のピアニストによるバッハの「目を覚ませと呼ぶ声が」ランゲの「埴生の宿」など4曲が披露され、聖堂内は時に厳しく、又優しい緩やかな音色に包まれました。

第3部は、マルチン病院コーラス部による合唱です。テーマは「愛、支えたい！」。マラナタなど3曲の美しいハーモニーに心が和みます。

最後は全員で「花は咲く」を合唱し、コンサートは終了しました。参加してくださった近所の方から「宗教のことはよくわからないけれど、みんなで一つになって何かをすることが、祈りなのでしょうか。この思いが伝わればいいなあと思います。」と嬉しい言葉をいただきました。

私たちにできることは小さなことですが、この機会が与えられたことに感謝し、又来年へつなげたいと思っています。

尚、当日の募金や、復興支援Tシャツの売り上げ金は教区より東北へお送りしました。

坂出教会　河上　真理

編集後記

世界有数の火山列島といわれるほどに地震活動も活発な日本。さきの東日本大震災からの記憶も生々しい中で、またもや熊本大地震を被ってしまった状況を、わたしたちはどのように捉えたらいいのでしょう。それぞれ震災を被った方々への寄り添いと支援も視野に教区財政の立て直しという課題に真摯に向き合うことが求められています。

（J）

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園